

三原市立本郷小学校 第6学年 道徳の時間学習指導案
教材名：「だれが拾うの？」

指導者 三原市立本郷小学校 T1 山本 美香
T2 村上 敦

- 1 日 時 平成29年 9月20日(水) 第5校時(13:55~14:40)
- 2 場 所 6年2組教室
- 3 学 年 6年2組(男子16名, 女子10名 計26名)
- 4 主 題 名 ほんとうにいい学校とは C-(16) よりよい学校生活, 集団生活の充実
- 5 本時のねらい 学校をよりよくしていくためにボールを拾うほうがいいのか, 拾わないほうがいいのか話し合っているふたつの意見に共感し, ほんとうにいい学校について考えることを通して, みんなで協力し合ってよりよい学校をつくるとともに, 自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めようとする態度を育てる。
- 6 教材名 「だれが拾うの？」(学校図書)
- 7 主題設定の理由

(1) 主題について

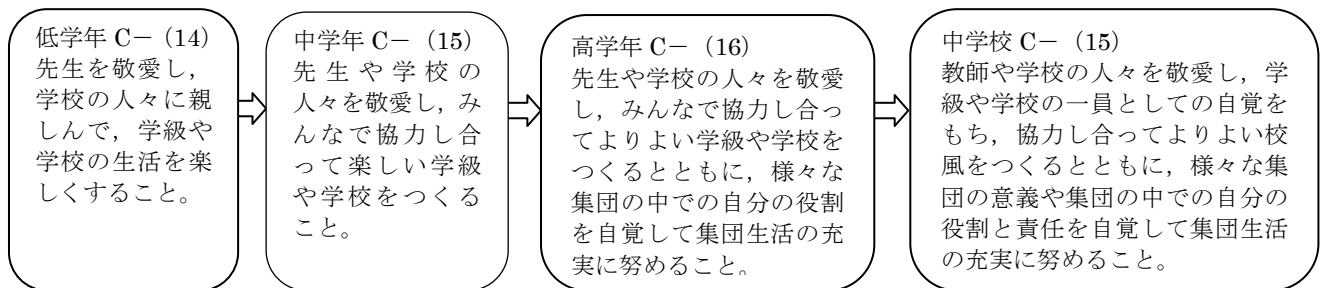
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「C 主として集団や社会の関わりに関すること」の(16 よりよい学校生活, 集団生活の充実)の5・6年生指導内容項目の中で、「先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに, 様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。」を取り上げている。

人は社会的な存在であり, 家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は, 集団の中で一人一人が尊重して生かされながら, 主体的な参加と協力の下に集団生活が成り立ち, その質的な向上が図られるものでなければならない。そこで, 教師や学校の様々な人々との活動を通して学級や学校全体に目を向けさせ, 集団への所属感を高めるとともに, それらの集団に役立っている自分への実感とともに学校を愛する心を深められるようにすることが求められる。

児童の発達段階においては, 様々な場でリーダーとして役割がある中, 児童が小学校の高学年としての自覚をもち, 学級や学校, 身近な集団を愛する心を具体化できるようにすることが大切である。

指導に当たっては, 様々な集団での活動を通して, 集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせると同時に, 集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てよう指導することが大切である。

【内容項目とその系統】



(2) 児童観

本学級の児童は, 4月から最高学年として行動することを意識してきた。登校班や縦割り班の班長として他学年への声掛けをしたり, 朝会時には1番に体育館に行って座ったり, お手本になれるように頑張っている児童が多い。また, 委員会活動など自分の仕事を責任もってできる児童も多々いる。しかし, 自分の考えをもっている, 発言したり行動に表したりするのが得意でない児童もいる。

「本郷小学校のことをどう思いますか」という質問に対して、58%の児童は肯定的な意見を書いていた。「近くに山があって、駅が近いところがいい」「人数が多く、友達が優しい」という意見が挙がっていた。中には、「伝統的」という意見もあり、「どんなところにそう思うのか。」と聞いてみたが、「学校として歴史があるから。」という漠然としたものだった。

一番多かった意見は「挨拶がいい」であった。1学期より、児童会を中心にあいさつ運動をする委員会が増えたこともあり、学校として頑張っているという実感をもっている児童が多かった。そこから、6年生として働きかけていること、頑張っていることが本郷小学校を「よりよい学校」にしていくために必要であり、だからこそ自分たちの意見をもって伝えること、実行していくことが大切だということに気付かせたい。

(3) 指導観

本教材は、6年生の2学期に自分たちの学校の校庭をきれいにするために校庭に落ちているボールを拾おうという意見と、拾うことで一時的にきれいになるけれど、また同じことの繰り返しになるので拾わない方がいいという二つの意見が対立し、教室中が騒然となる展開である。二つの意見で自分が共感する意見をもとに話し合っていくことで「ほんとうにいい学校」とは何か、その中で自分ができることは何かを考えさせていきたい。

指導にあたっては、導入において、本郷小学校に対する思いを自覚させるために「どう思いますか。」と問い、多様な角度から意見を出させる。その後、同じ中学校区の本郷西小学校6年児童の本郷小学校に対するイメージを聞き、その共通点・相違点から、学校に対する思いについて課題意識をもっていく。

展開前段では、対立する二つの意見に対して、自分の問題として考えさせるために、自分はどちらの立場に賛成するのかその根拠を出し合いながら話し合いを進めていく。どちらの意見も「よりよい学校にしていく」ために考えた意見であることは押さえておく。そして、中心発問において「この後どうするだろう。」と問い、これまでにあった自分たちの具体的な場面を想起しながら、よりよい学校、集団にしていくために自分たちができることについて考えていく。

終末においては、本郷中学校の生徒の学校に対する思いを聞く。協力し合って校風をつくろうとしている先輩の思いを聞く中で、憧れを抱き、温めた価値についてより実践意欲を高めていけるようにしていく。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

- 「自他を尊重し、よりよく生きようとする児童・生徒の育成」
 ～自分・他者・地域との”つながり”を意識した道徳的实践を通して～
 「自分とのつながり」
 ○発達段階や系統性を考慮した、小中学校一貫の道徳授業スタイルを確立する。
 ・思いや考えを互いに表現し合える発問・指導方法の工夫
 「他者とのつながり」
 ○発達段階や所属集団の違いを生かした新しい道徳授業の在り方を創造する。
 ・小・小合同道徳授業の開発・実践

8 本時の展開

(1) 準備物

場面絵、掲示用の短冊、ワークシート（自分発見シート）

(2) 学習の展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	T1	T2	指導上の留意点 (※評価)

<p>導入</p>	<p>1 「本郷小学校」についてイメージを語り合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本郷小学校についてどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多い。 ・校舎が古い。 ・クリーン大作戦を行っている。 ・みんなであいさつ運動をがんばっている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本郷西小学校の6年生は本郷小学校の良さについてこんなことを言っていますよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・よくわからないなあ。 ・へーっ。そんなふうにいるんだ。 ・自分たちが思っているイメージと違うな。 ・やっぱりそこは本郷西小の人たちは見ているんだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>本郷小学校のよさはどうやってつくっていくのだろう</p> </div>	<p>板書</p>	<p>発問</p>	<p>○学校に対するイメージを語り合い、集団の一員としての自覚を感じる。 ○自分発見シートに書かせ、展開後段の自分の考えと比較させる。 ○隣接校の同級生からのイメージを聞き、自分たちとの共通点・相違点を感じ、ねらいとする道徳的価値に対しての問いをもたせていく。</p>
<p>展開</p>	<p>2 教材「だれが拾うの？」を聞いて話し合う。 ○木島さんの意見の根拠について話し合う。</p> <p>○ふたつの意見について自分ならどうするか話し合う。</p> <p>○「よりよい学校」にしていくための自分の考えを話し合</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どうして木島さんはボールを拾うことに反対したのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今までずっと拾ってきたけど、何も変わらなかった。 ・自分たちだけがやっても意味がないのでは。 ・ボールを平気で落とすまま帰ることがあたりまえになってはいけない。 ・ひとりひとりがこのままではいけないと気が付かなければいけない。 ・もっといい方法があると思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>あなたがその学級の一員だったらどちらの意見に賛成ですか。それはどうしてですか。</p> </div> <p>(植山君)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままのだからいけないから、自分たちが動くしかない。 ・自分たちの姿を見て、他学年の人にも気づくはずだ。 ・気付いた人が学級に届けて、その学級に注意をしたらいい。 <p>(木島さん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままではいけないけれど、自分たちだけが動いても学校全体は変わらない。 ・本当に変えていこうと思ったら、落とさないように全体で話し合っていくべき。 ・新しいルールをつかって新しい伝統にしていきたい。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ほんとうにいい学校」にするためにみんなはこの後、どうするだろう。</p> </div>	<p>資料提示 発問</p> <p>板書</p> <p>発問</p>	<p>資料提示 板書</p> <p>発問</p> <p>板書</p>	<p>○「学校のために」と考えた植山君の意見を確認した後に発問する。 ○「ボールを拾うのが面倒だから？」等揺さぶりをかけながら、「学校のため」という意識を高めていく。</p> <p>○自分発見シートに自分の考えを書かせる。 ○どちらの意見も「学校をよりよくしていきたい」という思いであることを押さえる。</p> <p>○T1 が植山くんの立場で T2 が木島さんの立場で相手の意見に揺さぶりの補助発問をしながら話し合いを深めていく。</p> <p>○まずグループで話し合い、全体で交流していく。</p>

	<p>う。</p> <p>3 振り返りを行い、新たな学びを実感する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の代表委員が休憩時間の後にチェックしていく。 ・代表委員会の話し合いにせず、全校で話し合っ、目標を立てていく。 ・体育委員会や美化委員会にもよびかけて、点検や表彰をしたり、ポスターで意識づけていたりしていく。 <p style="text-align: center;">↓(その理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが学校のものを大切にする自覚を高めていきたい。 ・学校をより過ごしやすく気持ちいい場所にしていきたい。 ・新たな伝統としていきたい。例えば、くつがそろっていなかったので生活委員会が点検と表彰をしていって、放送でもよびかけて各学級ごとにくつをそろえていこうとする気持ちを高めていっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本郷小学校に対する思いを振り返りながら、新たな学びを書いてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として学校を支えていくことについて改めて考えることができた。自分たちのことだけ考えるのではなく、みんなが過ごしやすくなるためにこれからもがんばっていききたい。 ・〇〇委員会で「どうしていつまでもよくなるの。」と思ってあきらめていた。でもそのためにどうしたらいいか考えていくことは大切だと思った。 ・自分も本郷小学校のひとりだということを改めて考えることができた。 	<p>発問</p>	<p>板書</p>	<p>○自分たちの経験をもとにしながら、「よりよい学校」にしていくために自分たちに何ができるか考えていく。その際、自分たちの行っていることを改めて自覚していく。</p> <p>※みんなで協力し合ってよりよい学校をつくり、自分もこれからしっかりと関わっていききたい思いを自分なりに発展させていこうとしたか。 (ワークシート 発表見取り)</p>
<p>終末</p>	<p>4 「本郷小学校」に対する、思いを新たに感じる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>先輩の言葉を聞こう。</p> </div>	<p>進行</p>		<p>○本郷中学校の先輩の学校に対する思いを聞き、改めて学校に対する思いを持つ。</p>

